

提供日 2023/06/27
タイトル 県内で麻しん（はしか）患者が発生しました
担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課
連絡先 ふじのくに感染症管理センター
TEL 055-928-7272



～県内で麻しん（はしか）患者が発生しました～

1 要旨

6月26日、西部保健所管内の医療機関から西部保健所に、発熱、発疹等を訴えて受診した患者について、麻しん感染が疑われる旨の連絡があり、患者検体について、県環境衛生科学研究所で遺伝子検査をしたところ、麻しんと判明しました。患者が周囲への感染性を有する期間（発症1日前（通常発疹出現の3～5日前）から発疹出現後4～5日目くらいまで）の**接触者は全員特定できており、不特定多数との接触が考えられる施設や、公共交通機関の利用はありません**。現在、接触者の健康観察を進めており、発症した場合には直ちに受診するようお願いするなど、感染の拡大防止に努めています。なお、患者は自宅で療養しており、現在快方に向かっています。

2 患者の概要

西部保健所管内 30歳代男性（麻しん予防接種3回接種済（本人の記憶による））
発症日：令和5年6月20日（発熱）、令和5年6月22日（発疹）
診断日：令和5年6月26日
接触者等：患者が周囲への感染性を有する期間の接触者は特定されており、麻しんの感染可能期間に不特定多数との接触が考えられる施設や、公共交通機関の利用はありません。

3 県民の皆様へ

本事例においては接触者が特定できていますが、海外渡航後や、患者との接触後に、麻しんを疑う症状が現れた場合は、下記について、お願いします。

- 麻しん患者と接触した場合は、接触後最大21日間、体調に注意してください。
- 発熱、発疹等の症状から「麻しん」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡の上、速やかに受診してください。
- 受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないように、公共交通機関等の利用を避けてください。

4 麻しんについて

（1）症状等

潜伏期は通常10～12日間（最大21日間）であり、38℃程度の発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。また、麻しんに伴ってさまざまな合併症がみられ、全体では30%にも達するとされます。肺炎や、頻度は低いものの脳炎の合併例もあり、特にこの二つの合併症は麻しんによる2大死因となり、注意が必要です。

（2）感染経路

空気（飛沫核）感染のほか、飛沫や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。

(3) 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

(4) 予防

ワクチンの効果は非常に高く、ワクチン接種を受けた人の95%以上が免疫を獲得します。しかし、接種しても、数%は免疫が獲得できない場合や、獲得した免疫が持続しない場合があります。現在、1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に、MRワクチンの定期予防接種を実施しており、**予防接種をしていれば感染するリスクは少なくなります。麻しんは予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。麻しんの定期予防接種をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。**

(5) 発生状況（単位：人）

（令和5年は6月27日時点）

年	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)
全国	744	10	6	6	19
静岡県	10	1	0	2	2

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。